



「楽園の春」

# “アート = 生きること”

眞野丘秋 個展 「新生地球」 2017年9月21日(木) - 9月26日(火)  
12:00 - 19:00 (最終日は 16:00 まで)

眞野丘秋による個展。“アート=生きること”という定義のもと、様々な事項や事象をテーマに描かれたアクリル画 28 点が展示される。ご高覧頂きますと幸いに存じます。 <アートイマジンギャラリー>

## 【バイオグラフィー】

眞野丘秋は滋賀県の高校の美術教師である父と、音楽家の母のもとに生まれ、幼い頃から芸術や哲学に囲まれた環境で育った。少年期は勉学やスポーツに熱心に励み、中国の思想書や自然をこよなく愛した。10歳の時に家族旅行で訪れたイタリア・フィレンツェの建築美術や、スペイン・マドリードの美術館で観たピカソの「ゲルニカ」は、幼い彼に強烈な印象を残した。

高校卒業後、彼は様々なジャンルのミュージシャンやアーティスト達と交流し、19歳でアジア各地へ放浪の旅に出た。彼は旅先のネパールで神秘体験（クンダリーニの昇華）を経験し、意識が覚醒したが、そのことによって現実社会との接点を失い、次第に精神のバランスを失うようになった。彼は25歳の時に重度のうつ病を発症し、現在まで治療を続けながらアート活動をしている。

彼のアートはアクリル画をメインにして、写真、エッセイ、小説など、幅広い表現を展開している。彼は人生そのものを一つの作品として捉えており、日常生活そのものが制作のプロセスである。彼にとって絵画などのアート作品の制作は、食べたり寝たりすることと同じく、ごく自然な行為である。彼は絵画を制作する際、全身で宇宙のエネルギーを掴み取り、頭を空にした状態で、肉体の欲求に従い、自動描画で行う。彼の意識は霊的世界と繋がっており、生み出される作品は強烈な色彩を放つ。彼はアートを通して地球上にはまだ存在していない未知のエネルギーを地上に降ろし、光を定着させ、人びとに希望を与えると同時に地球の波動を上昇させる。その結果として、地上に新たな楽園が創造されるだろう。